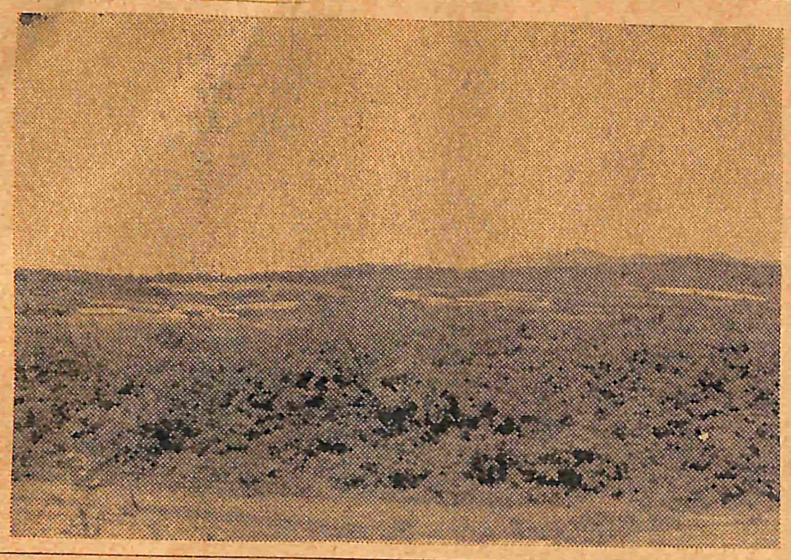
念願かなって電灯が

入植10年目で実現

"希望は共同経営だ"

明るい表情の川倉開拓地

昭和二十五年に入植した川倉開拓地は、現在まで満十年間、無電灯の不便な生活を続けてきたが、このほど県費補助がきまり、十月中には電灯がつくことになり、部落民の表情は明るい。



【写真＝丘陵地帯にあるヒッソリとした川倉開拓地も電灯つくの報に明るい表情】

川倉開拓は、町の中心街から北東一㌔東に位置し、標高四〇―八〇㍍へ約六㌔、親部落の川倉から約三㌔の丘陵地帯で、この地方としては比較的にめぐまれた条件下におかれている開拓地である。

したがって他の開拓地によくみられる脱落者はなく、入植当時の十五戸そのままが、日夜営農にはげみ、津軽北郡開拓地のトップグループにあり、部落民の生活は豊かだ。

だが電灯のないのが大きな悩みで数年前から町当局を通じて、電気導入を県に陳情してきたが、このほど実現することになったもの。工事費は百四十一万七千五百円（うち県補助九十四万四千円、町補助三十万円）東北電力五所川原営業所の直営でやることになっており、十月中には完成の予定である。

この開拓地の耕作面積は、一戸平均三㌶の畑地があり、ナタネ、大豆が主作物。そのほか附帯地として三㌶を所有し、乳牛、役牛、豚などの飼育がさかんで、特に鶏は一戸平均二百羽以上と、多角形営農への意欲が強く、昭和三十六年度には、〝新しい村づくり〟の特別助成事業で、四十頭収容の共同畜舎を建てることになっており、部落民は明るい将来に胸をおどらせている。

川倉開拓農協組合長三潟森藏氏の話＝長年の希望が叶い、十月には電灯がつくことになり、こんな嬉しいことはありません。いま私たちの部落では、この電気導入をキッカケに、農業の共同経営化にふみ切ろうと、みんな真剣に考えているが、なんといっても町当局のご厚意と関係者一同の熱意の賜です。

郷土の歴史と観光

カラーフイルムで紹介

町当局では、今年から郷土の観光と歴史を紹介するため、八㍉のカラーフイルムにおさめる計画をたて、既に観桜会と夏まつりの撮影を完了した。

十一月三日『文化の日』には、その一部を一般に公開する予定。

第五回 町内職域野球

9月23―25日

参加チームは十四、五か

第五回町内職域球大会は、来る九月二十三日～二十五日の三日間にわたって青野グランドで行なわれるが、同大会の開催要項は次のとおり。

◇主催　金木町体育協会

◇後援　金木町

◇大会日程　第一日　九月二十三日（秋分の日）午前九時より、第二日　九月二十四日（土）午後一時より、第三日　九月二十五日（日）午前九時より。ただし雨天の場合は別に定める

◇申込期日および場所　九月十八日（日）正午まで

ただしこの日は体協主催の西北五雄せん野球大会が青野グランドで開かれているので、申込みチームの主将は青野グランドに正午まで選手名簿（十三名以内）を持参し、集合のうえ組合わせの抽せんを行なう。

◇参加料　一チーム二百円

九月十八日抽せん時に納める

現在までの参加予定チーム

金木町役場、金木営林署、金木警察署、金木病院、弘大金木農場、金木金融団、金木町商工会A、B、学校団、農業団体

前回までの優勝チーム次の通り。

第一回（31年）弘大農場チーム

第二回（32年）金木警察署〃

第三回（33年）金木町役場〃

第四回（34年）金木商工会B〃

（註＝昨年第四回まではこの大会を町内職場野球大会と称した）

新金木町商工会

会長に大橋忠雄氏

安田、沢田両氏は副会長

新商工会法による金木町商工会の創立総会は去る八月二十九日午後一時から金木町第二保育所で開かれた。

当日はまず発起人総代大橋忠雄氏があいさつ、来賓代表津島町長の祝辞のあったあと、大橋忠雄氏が議長となって、新商工会の定款を制定、会長、副会長、理事、監事などの役員を選任、次いで事業計画収支予算を審議、原案どおり可決し午後四時四十分閉会した。

新商工会の本年度事業計画（九月以降）によれば、予算八十五万五千円で事業を行なうことになっているが、その主なものは次のとおりで、今後の活動が期待される。

○会員の増加

新商工会員は二百二十七名であるが、設立趣旨の徹底をはかり十一月末日までには、町内商工業者四百十七名の八割、三百三十五名の加入増につとめる。

○経営の改善

町内商工業の内容の分析診断するとともに経営の改善指導を行う（講演二回、講習一回、個別指導月十五件）

○金融対策

県信用保証協会を通じ、年間四千万円融資のワクを獲得する。

○事業の増加

旧正大売出しを嘉瀬、喜良市と合同で実施する。

○観光事業

青野公園の美化、施設の完備をはかるほか、当地方の観光資源の開発宣伝につとめる。

新商工会の役員次のとおり

会長大＝橋忠雄

副会長＝安田光男、沢田悦造

理事＝長内良太郎、高橋元弥、成田清明、松山正治、小杉誠一郎、佐藤昇一、伊藤儀市、角田良逸、長尾多市、大川助一、新岡正海、伊藤正美、新岡年一、大橋得司、中谷定雄、吉崎輝夫、吉崎吉光、土岐保正、高杉豊光、桑田信吾

監事＝木村兼作、西村啓次郎

赤ちゃんコンテスト

9月26日役場会議室で

◇実施日時＝九月二十六日（月）午前十時から午後三時まで

◇場所＝金木町役場二階会議室

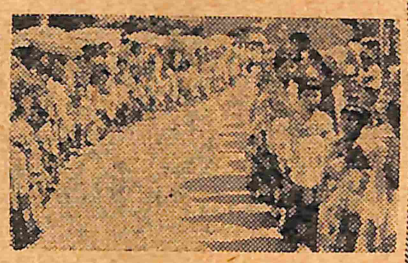
◇應募資格＝昭和三十四年九月一日から同三十五年二月十九日までに生れた赤ちゃん。

夏まつり写真ニュース

ことしの夏まつりは、ナニカニと規模が大きかった。八月十四日から三日間にわたって行なわれたのだが、その状況を写真でいま一度……。

立派だった少年武者

武者行列から一人だけピックアップしてみて、このサムライが一番勇ましかった。カブトでなくエボーシみたいなのが気になるが、始めから終りまでキチンとした姿勢で絶対くずさない。他の武士は名士だがこの侍にはカナワナイ。年は？ナント満十歳とは……。



邪魔なお母さん

キレイに着飾った稚児さんの行列だ。人垣をわけ、首だけ出して見ようとしたが、邪魔者が稚児さんの横にピッタリついているのでナカナカ私の視界に入ってこない。『そこドカンか!!』とドナロウとしたが、お母さんだったからヤメにした。

名士の大名ズラリ

『こうして大名衣裳を着てみたのだが、いったい私は何万石の大名様かな？　どうせ大名になるなら一万や二万石では面白くないし……』とは、仕度しながらの諸大名様。誰ですかって？右から町長さん、議長さん、団長さん、左端は金木の浅沼さんーで発。（金木は現在約四万石）

唄のつかぬ奴踊り

『コリャ大したもんだ。いつの間に嘉瀬のヤッコさんこんな踊りを覚えたのかナ……』とは、ハキハキした動作に眼をミハル町の人々の言い草。だがそのあと『この奴踊り、唄がつかネェぞ』だそうだ。それもそのハズ、墨石から来た奴コさんですもの……。

9月14日から豚コレラ予防注射

各部落には係官が直接行って個戸に注射します。料金は次のとおり。

大人　一五〇円、中人　一〇〇円、小人　五〇円

実施期日	実施区域
九月十四日	喜良市
九月十五日～十六日	嘉瀬
九月十七日	川倉
九月十八日	蒔田、神原
九月十九日～二十日	金木

喜良市：上派立、下派立、上柏木、下柏木、下町、川端町、東生部落、東岩見町、西岩見町、野崎、林町、南本町、北本町

嘉瀬：上派立、中派立、東町、小栗崎、中柏木、下派立、新町、昭和町、冷水、本町、新堤町、上古町、上鍛冶町、下鍛冶町、畑中、新誠町、後町

川倉全域

蒔田、神原

金木：栄町、田町、南新町、山道町、昭和町、大東ケ丘、神明町、朝日町、米町、川端町、寺町、新富町、浦町、青野町、三軒町、沢部

自衛官の募集

自衛隊では只今二等陸、海、空士自衛官の募集を行なっております。

◇資　格＝高十八歳から二十五歳未満の男子

◇受　付＝町役場または自衛隊青森地方連絡部で十月十日まで受付けています。

◇入　隊＝昭和三十六年一月または三月

くわしいことは町役場総務課へお問合せください。

人口動態

（昭和35年8月31日現在の推計人口月報による）

男　8,249人
女　8,587人
計　16,836人

区分		金木	嘉瀬	喜良市	計
人口		8,536	4,611	3,689	16,836
世帯		1,487	816	535	2,838
異動	出生	18	8	4	30
	死亡	4	2	0	6
	転入	3	1	0	4
	転出	7	1	2	9
結婚		2	2	0	4
離婚		0	1	1	2

町内の各学校では、毎年生徒さん達に〝夏休み〟を利用して経費のもっともかからない方法で、楽しい『団体生活』をさせているが、その状況を金木小学校の作文で紹介してみることにした。

金木小学校六年生は、木村先生ほか九人の先生の指導で、八月六日から九日まで、野内村久栗坂の観音寺に三泊四日の臨海学校を開いている。

【本力と時間があれば、一日中でも入っていたいのだが…】

臨海学校の思い出

六年二組　津島希代子

夏休み中はいろいろおもしろいことや、たのしいことが、ありましたが、なんといっても一ばんおもしろかったのは臨海学校へいった時のことです。

みんなといっしょに海の生活をしてきたことがいつまでもいい思い出となります。

野内村久栗坂の観音寺は広々とした海にのぞんし、私達山育ちのものは、ただこの美しい海のけしきにみとれるばかりでした。

いきなり海にとびこんで見たいという心を、おさえることが出きません。

屋ごはんをすまして、荷物を整理しましたので『水泳にいってもいい？』と沢田先生に、聞きましたら『もう少しまちなさい』といわれたのでがっかりしてしまいました。幼い時おばあさんにつれられて、小泊の海岸で遊んだのを思いだしました。

そのころはまだ幼かったので、ただ広い海と砂だけが頭に残っているだけです。

目の前にこの美しい砂浜をながめ水着に着かえ、うきぶくろをもっていると早く海へ入ってしまいたい気持で一ぱいでした。

まもなく『よし』という生徒達の声を、聞いたので、まってましたとばかりかけつけました。

私達が海岸へついた時は、準備体操がおわっていました。

私達は手足を動かすのも、もどかしくザブンと海へとびこんで行きました。

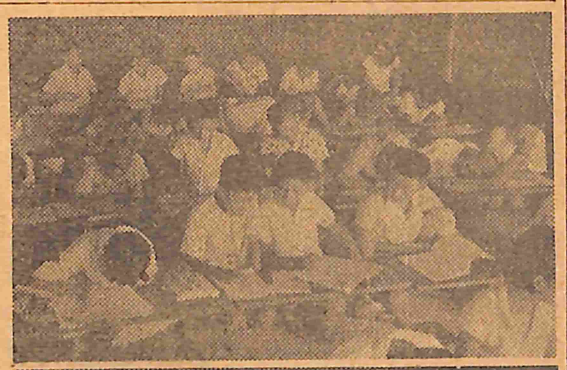
冷たい感じです。

水をかけあってああ、さわいでいたら、口の中へはいった水はしおからく、うきぶくろの中へはいった足は思うようになりませんただばちゃ、ばちゃさせているだけでも、おもしろくてやめられません。

泳げなくてもこんなにおもしろいのに泳げる人達はどんなにおもしろいことでしょう。

雪子さん達が深い方へ行っているので、私達もおもしろ半分にぐいぐい進んで行ったら、足がつけないほどの、深さになっていました。

これではただおぼれるだけだと、タカ子さんと手をつないで浅い方へもどって来ました。



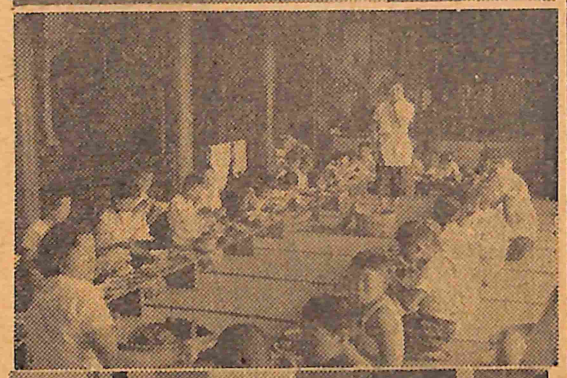


写真　㊤一番イヤな勉強なんだが…みんな同じ條件で寝泊りする團体生活での勉強はまた別な興味が湧くものだ。
㊥昔の子どもならコワがるものだが…？先生のお給仕で楽しくおいしい食事の時間。
㊦悪いのひとときの…女の子が碁盤に向って結構闘志を燃やしている。

しばらくして、沢田先生から『一度上りなさい』といわれても、この水がこいしくて上ることができないのです。

でもいいつけを守らなければもしもの、ことがあってはと、しぶしぶ上ることにしました。

お寺へ帰って、水着をほしながらいつまでも、ここでくらしたいなあと思ってながめていました。

波はあいかわらずザーッ、ザーと音をたてていました。

また浜辺に出て遊んでいたら一そうのボートがこっちへ流れて来ました。

ろをこいでいる人が、山内先生にとてもにているとおもったら弟さんでした。

ボートに私達は乗せてもらいました。

ボートは暗い海を静かに岸をはなれて、行きました。

なんだかこわいような気がして、漁師たちが、夜づりに出かけるのは、どんなにつらいだろうと思いました。

つぎの朝、目がさめると大部分の人が、もう起きていました。

私はいそいでフトンをたたみ、顔をあらいました。

ひろ子さんが自転車をかりて来たので、少しばかり散歩してきました。

ラジオ体操がはじまりました。

体操がすんでごはんを食べていると、木村先生が、きのうの水泳についての注意や今日の予定などを話してくれました。

そのあとは本堂で朝の学習です。

わからない所は先生や、友達と話合いをしますが、こんなことはみんな、上の空できいてただ海で遊ぶ時間が少しでも多ければ、よいのです。今日は古川先生といっしょに、泳ぎました。

バチャ、バチャ泳ぎのまね事をしていると、先生はスー、スーと泳いで行きました。

先生はじょうずだなあと思いました。

雪子さんや昭子さん達が泳いでいるのを、指をくわえて見ているだけです。

私達ひろ子さんやタカ子さんは、うきぶくろの中へはいって手をつないで波に乗っている見たいなので、私達は波のりといっていました。

ただ波のりをしていても時には口や目や耳に水がはいることもあります。

そんな時は、ことさら大きな声でさわぎます。

今日は昼ねをしなかったせいか、とてもつかれました。

山内先生は『水泳はつかれるから』といつも注意してくれるのですけれども、私達は昼ねをしないで、フトンにころがり、わいわいさわいでばかりいるのです。

ばちがあたるとはこんなことでしょう。

夕飯をたべてから、浅虫へいって一ふろ、あびました。

体はもとどおりすうーとなりました。

そのつぎの日は今までのところよりずっと後の方の遠浅へつれていってくれました。

ここで山内先生が私達を円形にならべ水泳の練習をさせてくれました。

八日、今日でいよいよ海ともお別れだと、思えばなんとなくさびしい気持になってしまいました。

ただ、すっと海をながめこのような生活は、私にとって二度とあるでしょうか。

どのクラスからも女の生徒は、一人二人と数えるだけで、私もなんだか心ぼそい気もちになったものですが、母は『これから年をとるにつれてこんな団体生活は望めないでしょうから』と、いくことに賛成してくれました。

こうしてすごしたいく日かは、いつまでも、いつまでも楽しいゆめとして、また思い出として残ることでしょう。

散粉機の補助

五十台の配分終る

農作物病害虫の防除濃勢を強化するため、本年度は手動式薬剤散粉機を購入する農家に対し、一台につき二千円を補助することになり当初予算六万円で三十台を予定したが、その後希望者が約百二十人にものぼったので、薬剤散布の薬品補助金から二万円を追加増額、五十台分を補助対象とした。

この配分方法は部落毎の耕作反別によったもので、各部落毎に抽せんすることになった。

部落毎の配分数量は次のとおり。

△金木十台△沢部二台△神原蒔田四台△川倉五台△藤枝三台△嘉瀬十七台△中柏木一台△喜良市七台

なお当せん者に対する補助金交付については、後日通知することになっている。

あとがき

○…八月は水害と夏まつりがいっしょになってしまった。明暗がこれほどかけはなれた記事を載せた町報は、創刊以来、今回がはじめてだ。

○…集まってきた原稿をみて、これをどういうふうに割付ければよいか最後まで迷いどうしだった。

○…九月は台風シーズンといわれているが、次号には暗い記事が載らないようにしたいものだ（S）

ちょっとお邪魔

⑭ 金木町曲輪、曲物工業組合長　丹場多左エ門

われわれの町から、外国向げの〝曲物〟がでるということを耳にしたので、サッソク調べてみたところ、それはこの丹場多左エ門氏だった。実にイカメシイ名前だ。

昔から日本は『サムライ、ニッポン』で通用してきたのであるから、外国向けにはワッチつけの名前だ、なととこ本人には誠に失礼なことを考えながらお邪魔してみた。

中肉中背のガッシリした身体にガッシリした感じの浅黒い顔。サムライならばナカナカ頼もしい侍だ。

『私たちの小さい時は、日本三大美林のヒバが金木山にある、といって自慢していたのですがいまどうして実際にヒバに、面と向かってみると、思うように手に入らない。高根の山のもの

ですが。しかもこれは私だけでなく、この地方でヒバにトッ組んでいる業者全部の考えではないでしょうか？。とくに資本なしの私たち曲物業者共通の悩みではないでしょうか』と開口一番のいい分。

サムライは商法にウトイといわれているが、このサムライはどうして、どうして……。

『しかも津軽のヒバが、他県から逆に製品として入ってきているばかりでなく、ひどい場合には原木のままで他県人から買わなければならないときもあるんですヨ。これもお金が無いからでしょうネ。まったく情なくなりますヨ』と嘆く。

だが『このたび輸出用の曲物に指定されたということですが』ときくと、さすがに嬉しそうだった。

指定されたのは曲物容器二点と丸型のお盆一点。

家具、建具に曲物を

ワッパを輸出する研究家

容器はヒバ材の茶びつのような丸型蓋付きのもので、桜皮で刺しゅうした無色透明に塗った上品なもの。

お盆も丸型で、容器に似たデザイン。

輸出品として見出されたのは、通産省がたてた『日本手工芸品対米輸出推進計画』にもとづいて今年五月弘前市役所で開かれた〝見本展示会〟に出品したのがキッカケで、アメリカからの巡回発掘班長ラルフ・M・チパノイ氏のおめがねにかなったものだそうだ。

『これをはじめた動機ですか？やはり時代にふさわしいものをつくらなければ……。

それに、化学製品に私たちの曲物が押されてきましたから、それとそナントカしなければ死んでしまいますヨ』とすでくワリきっている。

県下でこの曲物業者は十三人いるが、機械力でやっているのは丹場さんのみだそうだ。

氏の経歴を調べてみたら、大正八年ひつじ年の金木生れで四十歳。六歳の時一家が青森に移住金木に再び帰ってきたのは高小一年生のとき。金木高等小学校卒業後、軍隊に入るまで瀬尾さんの所で六年間ミッチリ曲物の腕をみがいている。

軍隊は終戦まで六年間、航空機の整備。案外平凡な道をたどっているが、軍隊当時は南方方面『航空機整備という特技があったので苦労している。

思いきって手工業の曲物を、機械でつくる工場に転換できました』と機械に対する自信のほどがうかがわれる。

趣味は釣、只八とさすがは武士それに写真もやるというから今昔湯清のひとだ。

『いまは仕事のことで好きなものでも手が出ません』とは氏の偽わらざる心境だろう。

『輸出までは、まだもうヒトふんばりしなければなりませんが

この仕事が一段落すれば、曲物を建具や家具に利用してみたいと考えているんですヨ。ナカナカおもしろいものです』といって、ガラス障子と洋服ダンスに応用することを画用紙に製図して説明してくれた。見なければわからないがスバラシイものだ。

煙草はお客様にキュウクツな感じを与えないために吸う程度だが、お酒はテンポ飲んでも酔わないという豪の者。したがって女は奥様以外に興味がないという真面目な丹場さんだ。

チョットだけのつもりだったがことも非常に長い時間の〝お邪魔〟になってしまった。

町民の皆様、ヒバどころに生まれ、そしてヒバをいかに活かしていこうか、と日夜なやんでいる氏に、なにかいいヒントがあったら知らせてやってください。

では丹場さんの一日も早く、この仕事を完成することをお祈りしてサヨナラにします。（S）

【写真＝出品した曲物を持って嬉しそうな丹場さん】